

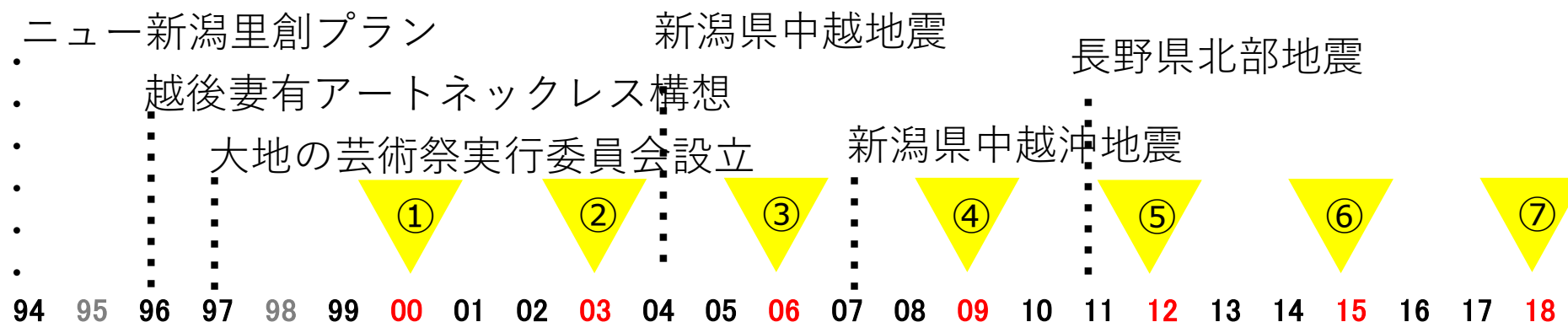
ー地域芸術祭のつくられ方ー

北川フラム

▼大地の芸術祭とは

| 越後妻有地域の里山を舞台に3年に1度行われている
国際芸術祭

| 2000年から継続して行われている地域創生の試み



▼ 越後妻有地域の特徴

| 豊かな水・世界有数の豪雪地

水分を含んだ季節風と信濃川に育まれた水の豊かな地域。
ひと冬の累計降雪深は10mを超え、積雪深で3mを超える。

| 1500年にわたって伝承された里山文化

棚田、瀬替えなど、自然と関わる高い技術。生活の集積が文化。

| 他地域と繋がるための土木技術

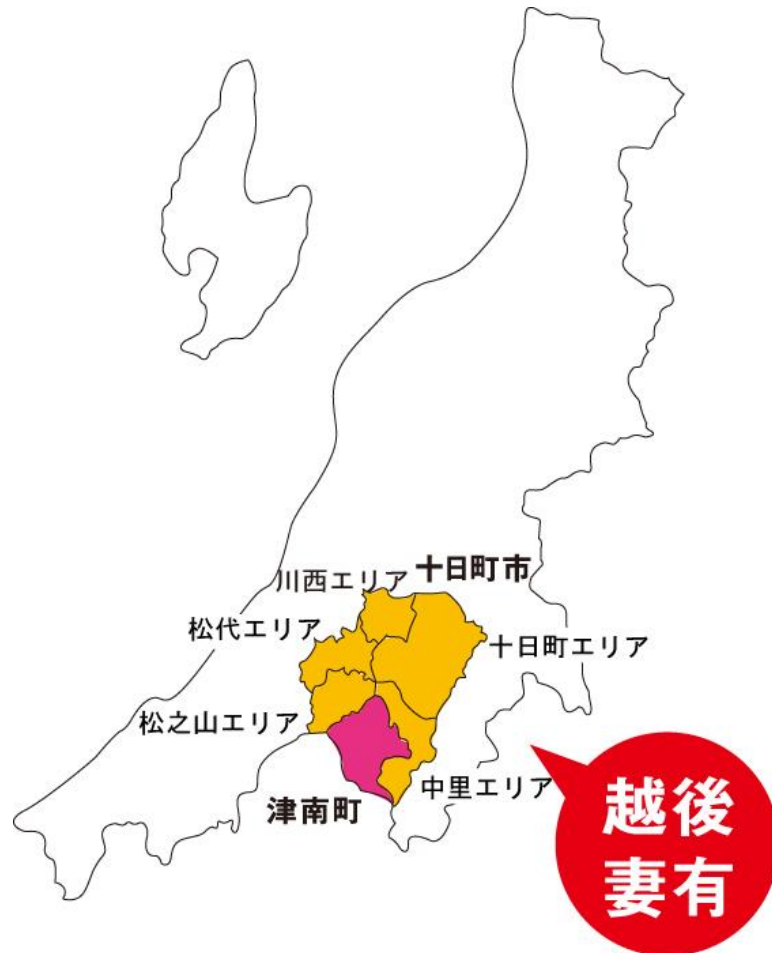
地域から外へ出ていくために土木技術が発展。

| 過疎高齢化が進行

200余りある越後妻有の集落のうち、約50集落が高齢化集落。
効率主義・グローバリズムの影響により過疎化が進行。
空家は約500軒、廃校は20校。



大地の芸術祭の舞台、越後妻有とは



2005年合併

十日町市

津南町

越後
妻有

人口 約6万3千人
(2018年7月末時点)

大地の芸術祭を貫くテーマ

「人間は自然に内包される」

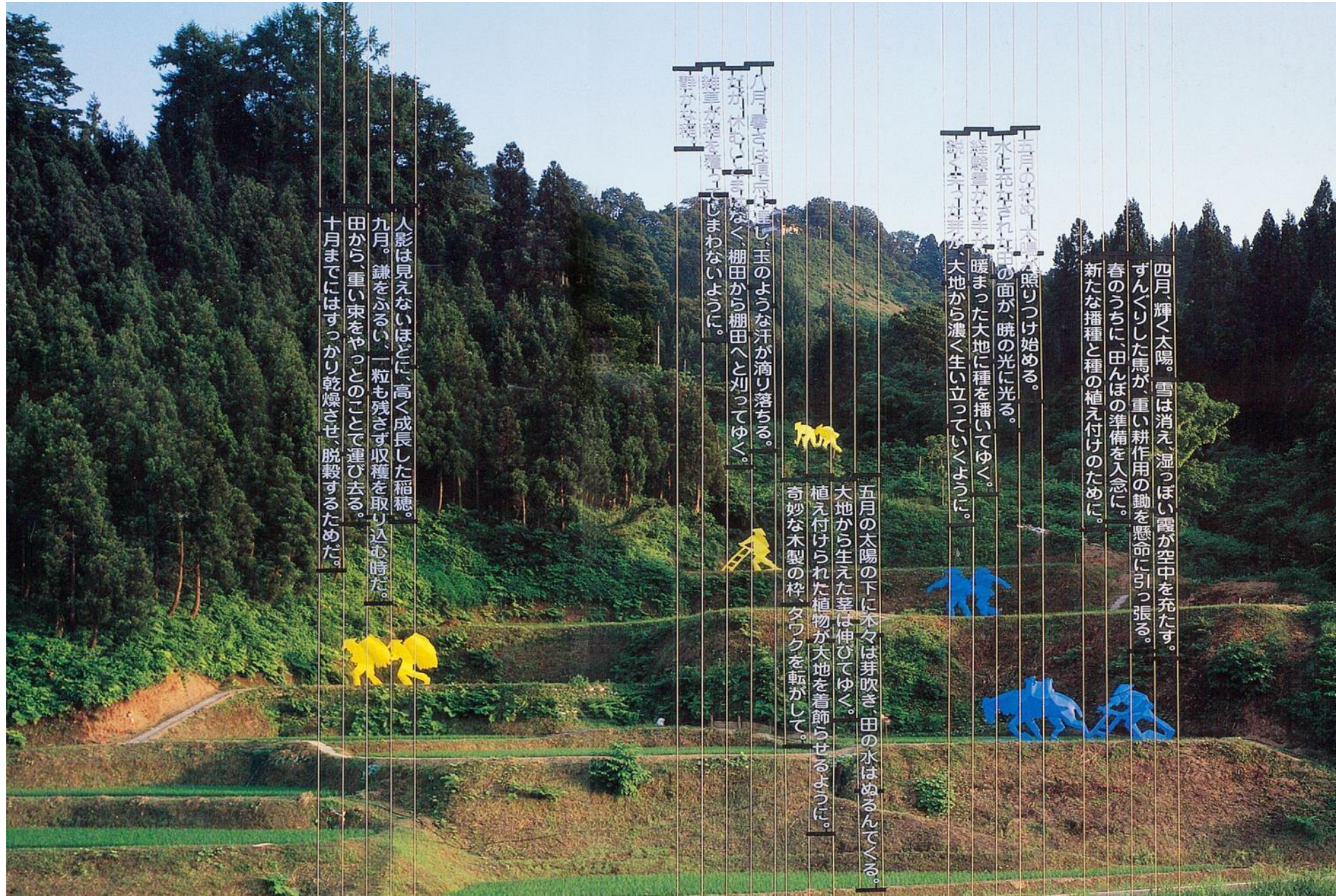
▼アートは地域を発見する

内海昭子（2009）



▼他者の土地にものをつくる

イリヤ&エミリア・カバコフ
(ロシア出身,アメリカ/2000)



四月、輝く太陽。雪は消え、湿っぽい霧が空中を充たす。
すんぐりした馬が、重い耕作の鋤を懸命に引っ張る。
春のうちに、田んぼの準備を入念に。
新たな播種と種の植え付けのために。

五月の初め、土が照りつけ始める。
水と花が田の面が、暁の光に光る。

経験豊かな手、暖まった大地に種を播いてゆく。
鋭い手、大地から濃く生い立っていくように。

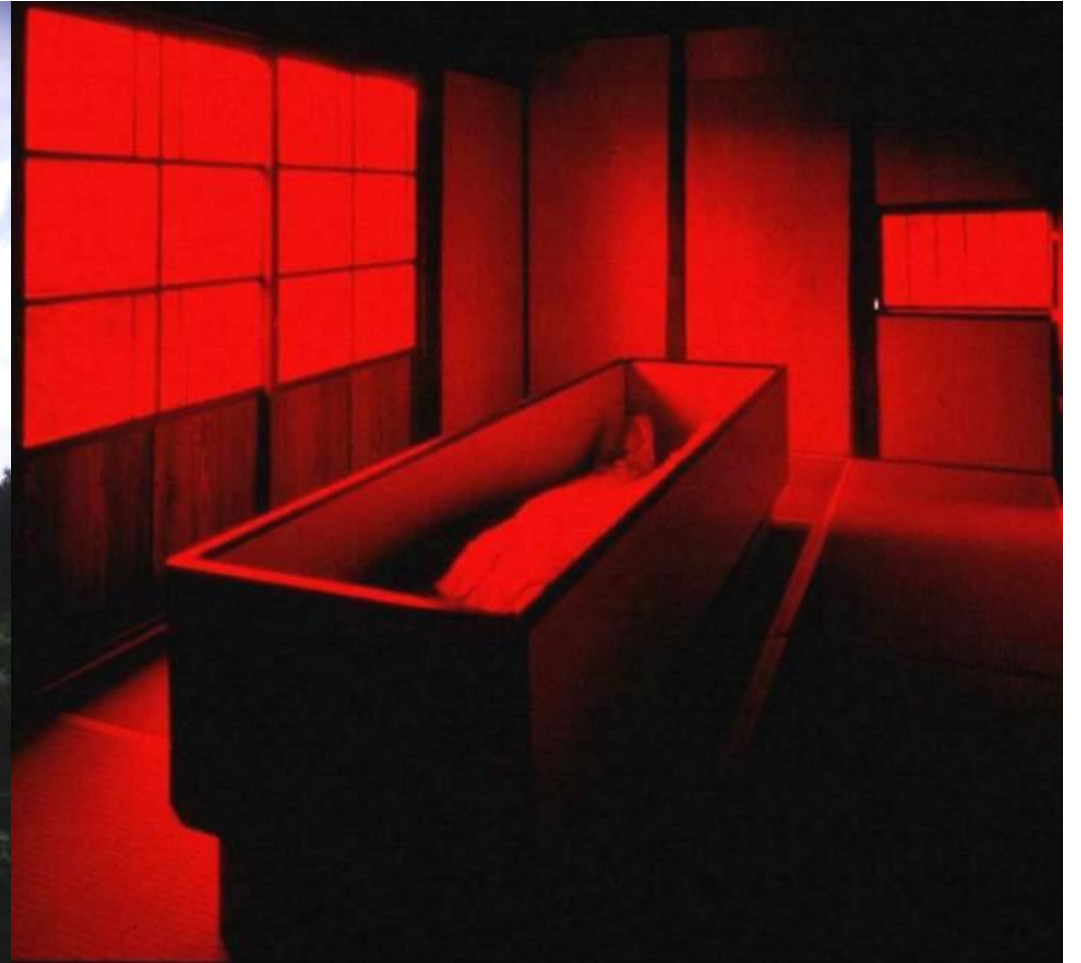
五月の太陽の下に木々は芽吹き、田の水はぬるんでくる。
大地から生えた芽は伸びてゆく。
植え付けられた植物が大地を着飾らせるように。
奇妙な木製の枠、タワウを動かして。

八月、暑さは頂点に達し、玉のような汗が滴り落ちる。
だが休め、きなく棚田から棚田へと刈ってゆく。
稲刈り、水田を準備、しまわないように。

人影は見えないほどに、高く成長した稲穂。
九月、鎌をふるい、一粒も残さず収穫を取り込む時だ。
田から、重い束をやつとのことと運び去る。
十月までにはすっかり乾燥させ、脱穀するためだ。

▼あるものを活かし新しい価値をつくる

マリーナ・アブラモヴィッチ（旧ユーゴスラビア / 2000）



▼世代・地域・ジャンルを超えた協働

古郡弘（2003）













日本大学芸術学部 脱皮する家（2006～）



▼廃校プロジェクト

クリスチャン・ボルタンスキー+ジャン・カルマン
(フランス/2006)



▼ 廃校プロジェクト

田島征三「絵本と木の実の美術館」(2009～)





外来者の「観光」と 地域の「感幸」が重なり出した

ナウイン・ラワンチャイクン (2015)



大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018

海外・他地域との連携

▼香港ハウス プロジェクト

設計＝イップ・チュンハン(葉晉亨)



参加作家

アート・アプレイザル・クラブ

サウンド・ポケット(聲音掏腰包)

ジ・ファー(字花)

フロッグ・キング(蛙王・郭孟浩) +
香港演芸学院

リョン・チーウォー(梁志和) + サ
ラ・ウォン(黃志恆)



▼大地の恵み(Gift from Land) プロジェクト／香港

センスアートスタジオ＋香港農家＋セントジェームズ・クリエイション(藝想) 《大地の恵み》



香港からは農業関係者、アーティスト、パフォーマー、政府関係者、ボランティア参加、高校生の研修プログラムなど多様な人々が芸術祭に参加。

▼大地の恵み(Gift from Land) プロジェクト／香港

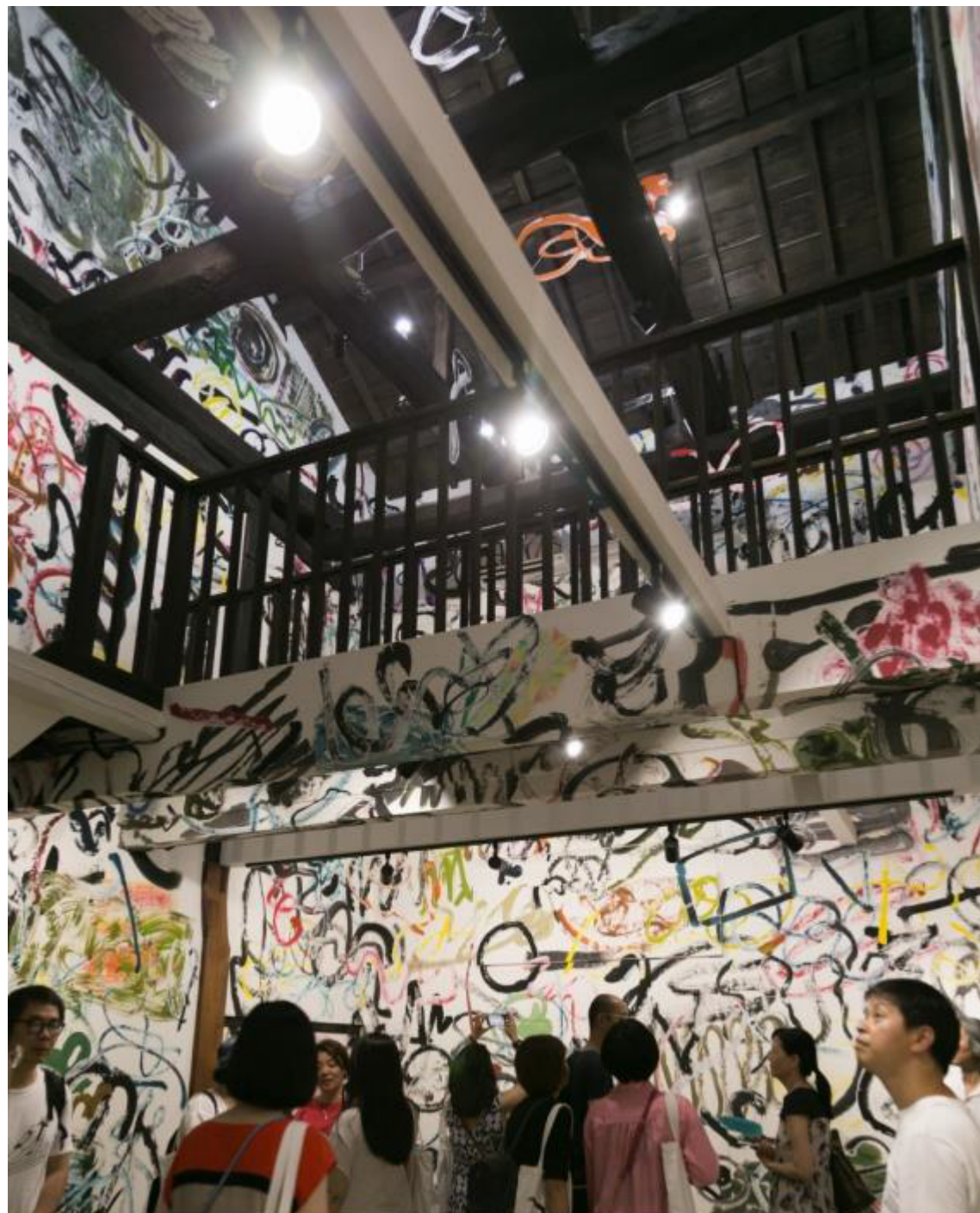
セントジェームズ・クリエーション(藝想) 《大地の恵み／土・圭・埴陶芸交流プログラム》



▼中国ハウス プロジェクト



ウー・ケンアン(鄔建安)



北京で芸術祭企画発表会を開催

5月8日@北京 130名の参加／約50媒体掲載



▼ 野投ースペクトラム展

韓国の野外彫刻プロジェクトが大地の芸術祭に参加。
8か国のアーティストが出展。



▼他地域の芸術祭とつながる

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ



都市と地域の交換

▼上郷クローブ座(2012年閉校)

地域におけるパフォーミング・アーツの可能性を探り、
都市と地域の交換の場となる事を目指す。

体育館(劇場)
×
宿泊(レジデンス)
×
レストラン
×
アート





▼ 奴奈川キャンパス（2014年3月閉校）

①食・生活・遊び・踊りを通して、一人ひとりの得意なことを掘り起こすための学校。

②農業をしながらなでしこリーグを目指すFC
越後妻有の拠点。

学校で行う様々なアクティビティにより新しいネットワークを構築し、地域の課題である耕作放棄地の増加を食い止め、地域の景観を保全するプラットフォームを目指す。







食の充実

奴奈川キャンパス



[illegible]

うぶすなの家



上郷クローブ座レストラン



芸術祭をなぜ行うのか？

人間の均質化、ロボット化、家畜化を自然との関係の中で変えていく

美術の思想的バックボーン
“人間は多様である”

作品を観ること、表現すること
そこに誰一人同じ感じ方・体験はない。

課題：質が問われている

持続していかなければならない

“必要でないこと”をする意味

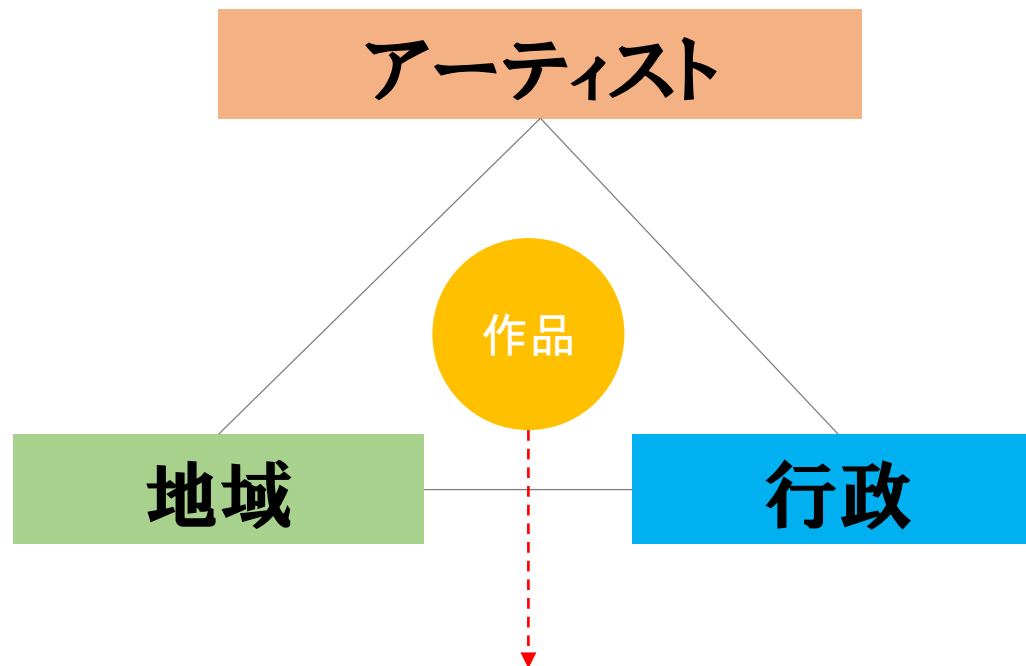
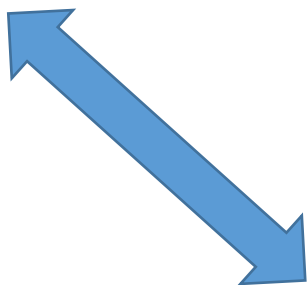
生活必需品ではない美術。
しかし人間は面白いことをしないと
生きていけないのではないか。

→ 新しい活動＝仕事の創出

従来の美術
ホワイトキューブの中の



“文明の解析”



“自然(文明)と人間との関係”

||
美術

作品制作

- ツアー
- 広報
- サポーター
- パフォーマンス
- デザイン
- 記録
- 食
- グッズ
- 産業

国連

「開発のための持続可能な観光の国際年」

国連は、2017年を「開発のための持続可能な観光の国際年（International Year of Sustainable Tourism for Development）」と決めました。

国境を越えて観光する人の数は、世界で一日300万人以上にのぼり、毎年およそ12億人が海外旅行をしています。このように膨大な人の移動をもたらしている観光は、経済と社会、環境での持続可能な開発に大きく貢献する可能性を秘めています。

An aerial photograph of the Seto Inland Sea, showing several islands and peninsulas. The water is a deep blue, and the land is a lighter blue-grey. The text "瀬戸内国際芸術祭" is overlaid in white.

瀬戸内国際芸術祭

| 2010年から3年に1度行われている国際芸術祭

瀬戸内国際芸術祭の会場

海の復権

1. アート・建築

2. 民俗・生活

－地域と時間と住民（島のお年寄たちの元気）

3. 交流

－日本全国・世界各地の人々に関わる

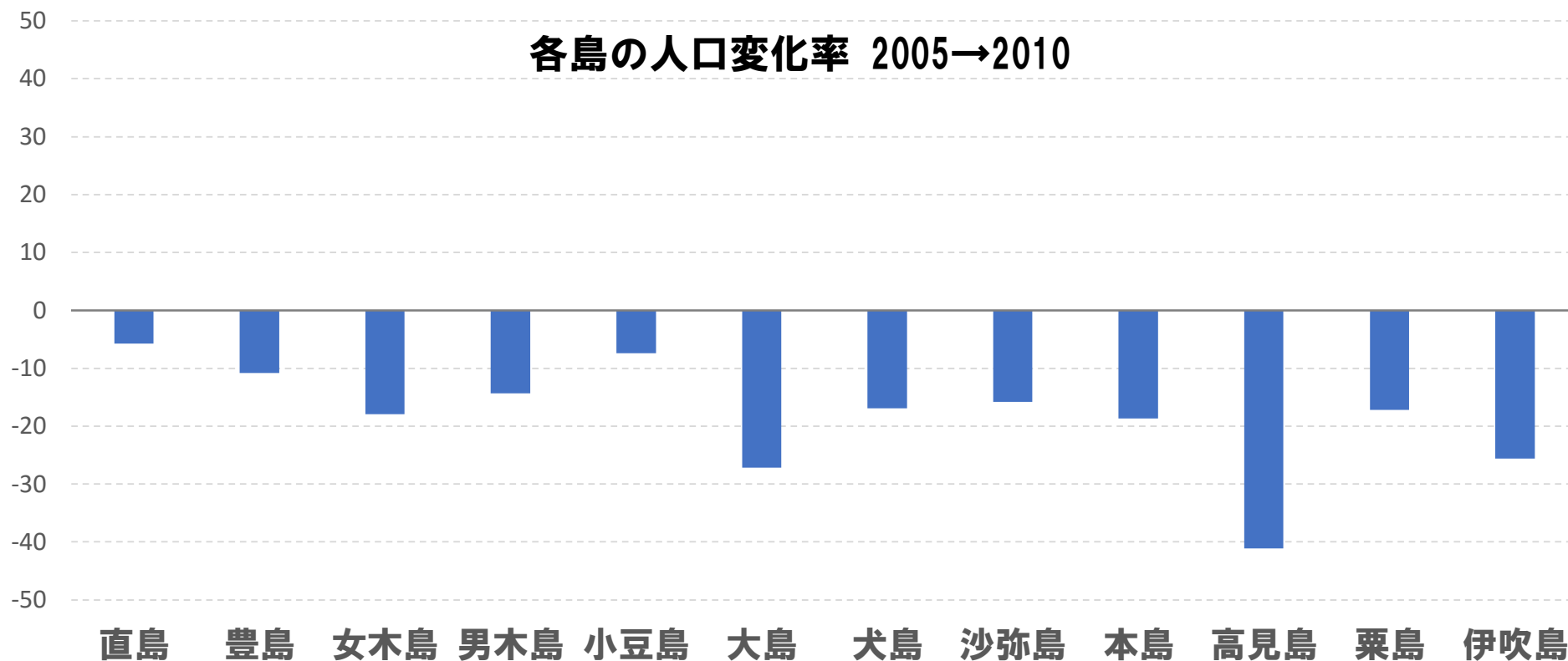
4. 世界の叡智が集う

5. 次代を担う若者や子どもたちへ

6. 縁をつくる

芸術祭開催の背景

- 過疎高齢化が進む瀬戸内の島々
- 島の力の減退



直島

「地中美術館」 設計:安藤忠雄(2008)



写真:藤塚光政

大竹伸朗 「直島銭湯『I♥湯(アイラブユー)』」(2009)



犬島

「精錬所美術館」
建築：三分一博志 アート：柳幸典



円都空間 in 犬島 Produced by Takeshi Kobayashi



豊島

「豊島美術館」 アート:内藤礼 / 建築:西沢立衛 (2010)





トビアス・レーベルガー(ドイツ)
「あなたが愛するものは、あなたを泣かせもする」(2010)



安部良「島キッチン」(2010)







クリスチャン・ボルタンスキー 「心臓音のアーカイブ」(2010)



Photo: Yasuhide Kuge



女木島

依田洋一朗「MEGI ISLAND THEATRE『女木島名画座』」



女木島名画座上映会





レアンドロ・エルリツヒ(アルゼンチン)
「不在の存在」 特別協賛：日本たばこ産業株式会社

大岩オスカー
「部屋の中の部屋」



A scenic view of the National Rehabilitation Center for Physical Disabilities, Aomori Rinsen Garden, located on Oshima Island. The image shows a large complex of buildings with traditional Japanese-style roofs, surrounded by lush greenery and overlooking a vast blue sea. In the background, several green islands are visible under a clear blue sky.

A scenic view of the National Rehabilitation Center for Physical Disabilities, Aomori Rinsen Garden, located on Oshima Island. The image shows a large complex of buildings with traditional Japanese-style roofs, surrounded by lush greenery and overlooking a vast blue sea. In the background, several green islands are visible under a clear blue sky.





「大島こどもサマーキャンプ」
(2012-17)





「カフェ・シヨル」 毎月1回 土日(営業)・月(島内限定営業) 社会交流会館内

男木島





ジャウメ・プレンサ 男木島の魂での結婚式(2011年)



「昭和40年会 男木学校 PSS40」

昭和40年会(会田誠、有馬純寿、大岩オスカル、小沢剛、パルコキノシタ、松蔭浩之)





男木小・中学校再開(2014年4月7日)
小学校には6年ぶりに児童4人、中学校には3年ぶりに生徒2人が通う

島民との協働



五十嵐 靖晃 そらあみ 制作ワークショップ

五十嵐 靖晃 「そらあみ 一島巡りー」



アジアとつながる

高松港・アート工房 ベンガル島(2013)



瀬戸内アジア村2016 タイファクトリーマーケット





アジアパフォーミングアートマーケット2016

S E T O U C H I
T R I E N N A L E
2 0 1 6

**アジア
パフォーミングアート
マーケット**

APAM2016

伊吹島



13の国と地域から16組が参加予定

**日本・中国・韓国・香港
マレーシア・ミャンマー
フィリピン・インドネシア
インド・カンボジア・ベトナム
タイ・スリランカ**

瀬戸内アジアフォーラム



瀬戸内アジアフォーラム

2016年10月17日～21日 10カ国・26団体・約50名参加

- ・グローバル化の波によって生まれる都市と地域の格差
- ・瀬戸内、越後妻有の芸術祭をきっかけに生まれる新しい動き

美術を媒介に土地の固有性を見つめなおし、地域文化を再び創造する動き

アートのパラダイム転換（欧米基準からサイトスペシフィック、コミュニティ、協働へ）

今までに縁のなかった人々が地域を現場として活動する動き（旅行者、サポーター、企業家等）

- ・アートが新しい地域づくりの手法として注目を集めている。

広がるサポーターネットワーク

石川県珠洲市
奥能登国際芸術祭



長野県大町市
北アルプス国際芸術祭



瀬戸内海12の島
高松港、宇野港
瀬戸内国際芸術祭



新潟県十日町市・津南町
越後妻有・大地の芸術祭